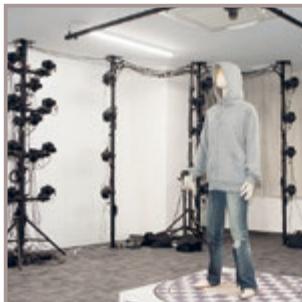


第5期 株主通信

2019年1月1日~12月31日

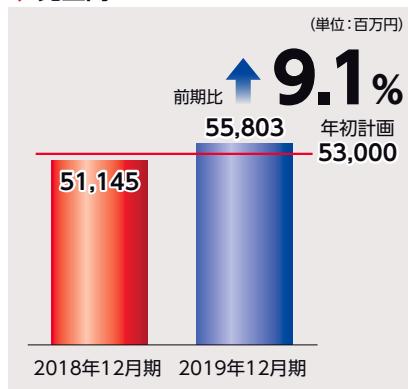
BUSINESS REPORT



日本創発グループ
JAPAN CREATIVE PLATFORM GROUP

We Craft Your Imagination.

◆ 売上高



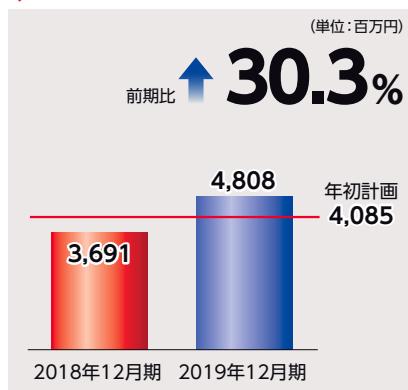
◆ 営業利益



◆ 経常利益



◆ EBITDA



◆ 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 1株あたり配当金



※当期第4四半期の配当金には記念配当2.0円を含みます



日本創発グループはお客様の創造性をカタチにする 「サポート企業集団」としてこれからも成長を続けます。

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、株式会社日本創発グループ第5期(2019年1月1日～12月31日)の事業の概要につきましてご報告申し上げます。

当社企業グループは「クリエイティブをサポートする企業集団」として、お客様が必要とする多様なソリューションを提供するために東京リスマチック株式会社を母体に2015年に純粋持株会社へ移行、同時に東京証券取引所JASDAQ市場に上場いたしました。東京リスマチック株式会社が設立された1972年から数えて48年、およそ半世紀ものあいだ、私たちは常に進化を続け、多様化するお客様のニーズにお応えする努力を続けてまいりました。

当社企業グループには、当社が掲げる理念に賛同する多くの企業に参画いただき、ともに事業の拡大、発展に力を合わせてまいりました。当事業年度内においても独自のノウハウ、高度な生産設備や技術を有する4社が新たにグループに参画することとなり、当事業年度末の時点で連結対象子会社27社、持分法対象子会社11社となりました。業績の面でも設立以来、総じて堅調に推移しており、第1四半期末、第2四半期末の配当金は従来どおり一株あたり6円でしたが、第3四半期末配当金は一株あたり8円に増配、期末配当金は、設立5周年記念配当2円を加えて一株当たり10円とさせていただいた結果、年間配当は30円となりました。

今後も当社企業グループはお客様にとって必要不可欠な企業集団として、クリエイティブサービス事業を軸に積極的なビジネス展開を推進し、みなさまのご期待にこたえるべく努力をしてまいります。

みなさまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2020年3月

代表取締役社長

藤田 一郎

今期の各事業概要

これまでの5年間、私たちはビジョンとして「We Craft Your Imagination.」を掲げ、お客さまのイマジネーションを「カタチ」と変えるため、あらたな表現手法と製造設備の拡充、人材の育成に努めてまいりました。ここに今期における4つの事業分野ごとの概況をお届けいたします。

中核事業における機能統合・再編

印刷・製造事業

当社グループの中核である印刷・製造事業では、特殊かつ付加価値の高い製品づくりを目指しています。これまで紙に対する伝統的な印刷だけにとどまらず、金属板への印刷から金型成形による缶の製造、幅5メートルの懸垂幕の印刷や、3Dプリンターによる大型展示物の製作など、幅広い素材を用いて、さまざまな製品を生産してきました。今期においては布に対する印刷（シルクスクリーン印刷・インクジェット印刷）から縫製、製造まで一括生産をおこなっているスマイル（P8参照）が新たにグループに参画したことで、タペストリー、のぼり、旗などの生産もグループ内で可能となりました。

また、当社はグループ経営であることのメリットを活かして事業所や工場、商材、サービスの再編などにも努めてまいりました。これからも、生産性の向上、コスト削減を追求し、さらなる競争力アップへと努力を続けてまいります。



背景幕から大型3Dプリンターによる造形まで、さまざまなニーズに高付加価値な製品で対応

驚きと感動を呼ぶ表現を追求

デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業においては、技術革新が著しく、VRやMRなど、デバイスの進化とともに、ソフトウェアとデータ制御技術が重要となっております。2020年から本格的な運用が始まる5G通信規格により、今後ますますIoTの普及が想定されますが、当社グループにとってのIoTは、クリエイティブと密接な関係を持つ表現手段のひとつでもあります。例えば精密な都市データをもとにPHOTOライクな都市景観の生成が可能な「REAL3D MAP」シリーズでは、TOKYO昼景に加え「REAL3D MAP TOKYO夜景」「REAL3D MAP OSAKA」と、ラインナップも広がり、今期も多方面で映像コンテンツやSP素材としてご活用いただきました。

今期は優れた開発力を有するVisolab（ヴィゾラボ・P9参照）もグループに参画、2020年度はサイネージやVRなどが劇的に普及する元年と捉えて、デジタル技術のさらなる積極的活用に取り組んでまいります。



「VFX-JAPANアワード2019」にて先導的視覚効果部門優秀賞を受賞した「REAL 3D MAP TOKYO夜景」

お客様のニーズに応えるために

セールスプロモーション事業

セールスプロモーション・マーケティング事業においては、お客様のニーズを実現するため、常に最適なソリューションの提供に努めています。

物やサービスがあふれる社会環境においては、心を動かし、行動へと導くためのベネフィット・インサイトを捉えることが重要です。私たちはビッグデータの収集から分析、効果的なプロモーション方法の構築、そしてそれらに必要なツールや媒体の製造まで、一連のプロジェクトに必要なマネジメントを担わせていただいています。各事業分野を横断し、連携させることで新しい価値を創造し、それをワンストップでご提供することが可能なのが当社グループの強みであり、また使命です。

今期は印刷製造業を基盤としながら、プロモーションに注力しているアプライズ(P8参照)がグループに参画しました。



アプライズでは全国私立幼稚園・保育園・こども園でのサンプリングメディア「PaN」を運営。先生向け情報誌も発行

新しい価値の創発

メーカー・OEM事業

当社グループのメーカー・OEM事業の分野においては、一般消費者向け文具の開発、製造、販売や、プロモーションツールとしてのバッグやポーチの製造、また海外でも人気のアニメ作品のフィギュアの企画・製造・販売、カプセルトイの販売レンタルなど、各社特色のある事業をおこなっています。

今期においては、コインを入れて回すのが一般的なカプセルトイの販売機、このアナログなガチャマシンにデジタル技術を融合させ、QRコードを使ったコインレスのマシンを開発、サービスを開始しました。これにより利用者の属性の収集・分析も可能となり、単なる販売機からセールスプロモーションツールとしての活用の幅を大きく広げることが可能となりました。グループ企業の専門性を合わせ、新しい価値を創発する事例が拡大しています。



QRコードによってコインレスを実現した次世代ガチャマシン「ピピット ガチャ」

日本創発グループのこれから

日本創発グループが社会から必要とされる企業として、そして株主さまからの信頼と期待にお応えするために、これからの5年間を見据えた取り組みをご紹介します。

株主還元の強化

当社の2015年第1期の連結売上高は328億円、期初のグループ会社の数は20社でしたが、第5期を終えて連結売上高は558億円、経常利益は28億円弱、連結子会社と非連結子会社を合わせ38社のグループへと成長してまいりました。この間、当社は株主さまへの利益還元を重視した経営に努め、安定した配当の実現、また自社株の買い入れ等による株式の価値の向上などに取り組んできました。今期末においてはROE(自己資本利益率)も12%超となり、当社として初めての増配をおこなわせていただきました。2020年度は四半期ごとに1株あたり*2.5円(年間10円)の配当を予定しており、今後2024年までの5年間において、連続増配を目指してまいります。

*2020年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。

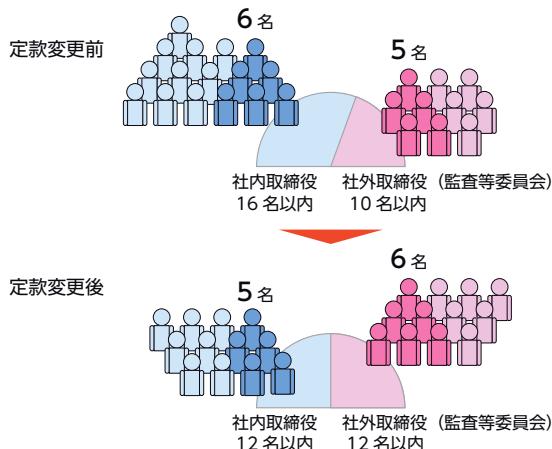


コーポレートガバナンスの強化

2020年1月29日に開催された臨時株主総会および、3月27日に開催された定時株主総会において、監査等委員を含め、取締役の改選について、ご審議いただきご承認をいただいた結果、当社の取締役は11名となりました。

経営環境の変化に的確に対応するためには、業務執行体制をコンパクトにすることが迅速な意思決定に有効であるとの考えから、当社の取締役会は業務執行をおこなう取締役を5名とする一方、監査等委員である社外取締役は過半数を超える6名での構成といたしました。監査等委員である取締役は全て独立役員として東京証券取引所に届出しております。この体制変更により、第三者的な観点をもって牽制する監督機能をより強化いたしました。

取締役員数の変更



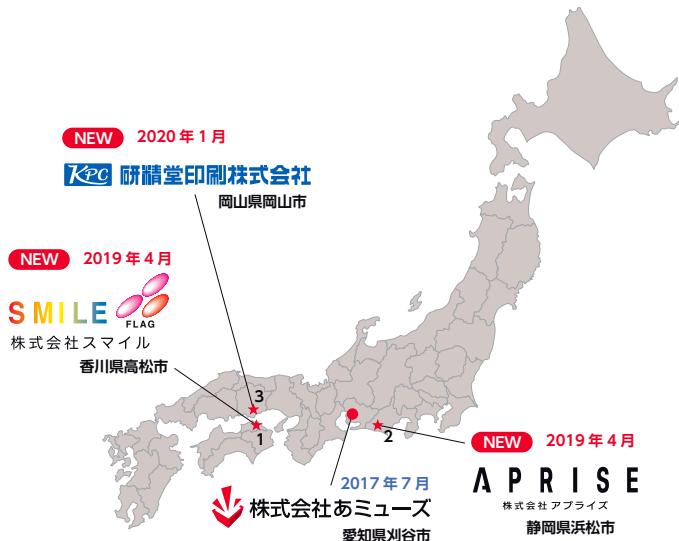
当社の取締役は16名以内から12名以内へ、監査等委員である取締役は10名以内から12名以内へと定款を変更いたしました。

(2020年1月29日臨時株主総会決議)

事業拠点の拡大

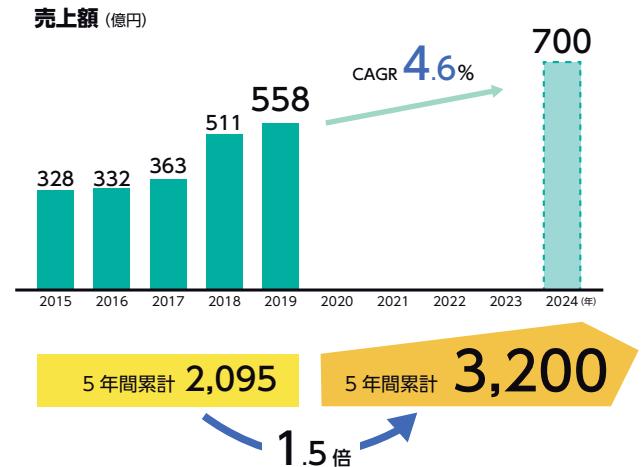
当社グループの事業拠点は、主に関東圏にありました。全国規模のお客さまへも、運送会社の物流網などを活用して納品していましたが、納期短縮へのニーズや昨今の物流コストの上昇に対しても対応力の強化を検討しておりました。

今期は、浜松など中京圏に拠点を持つアプライズがグループに参画、また2020年1月には中国地方の岡山に拠点を持つ研精堂印刷もグループに加わり、地方中核都市での拠点が構築されました。これら2社にとって当社グループの多様な商材を販売する機会を持つとともに、グループ全体では物理的な拠点として商圏規模の拡大およびサービスと物流効率の向上が期待できます。



今後5年間の展望

当社グループはお客さまのクリエイティブなニーズに対応するため、常に新たな商材、サービスの増強に努めております。そのための手段として今後もM&Aを有効に活用していく方針であり、参画会社のさらなる増加を見込んでいます。また地方への商圏拡大、海外への販路開拓なども進めていくこと、またメーカーとしての商品開発、製造、販売事業への注力などを踏まえ、2024年12月期までの5年中期目標として、ROE(自己資本利益率)12%以上を維持しながら、売上高700億円、経常利益40億円、EBITDA60億円を目指します。また配当性指向20%以上を堅持することで、株主のみならずお客さまのご期待に沿えるよう、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。



2019年 グループへの新規参画会社紹介

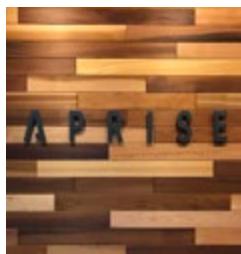
A P R I S E

株式会社 アプライズ

株式会社アプライズ

商業印刷・広告代理業
メディア運営

静岡県浜松市中区中島3丁目17番25号
URL : <https://www.aprise.co.jp/>



2019年4月参画

浜松に本社をおき、東海・中部地方を中心に5拠点で事業を展開しています。

「顧客貢献主義」をモットーに総合印刷業を核としながらも広告代理業、出版事業、WEB事業と幅広い事業分野をカバー、「企画制作力」「発信力」「アイデア力」「解決力」の4つの強みと、広告プロセスの大半を内製化した強みを活かし、自らサンプリングメディア「PaN」を運営、自社媒体の「ie・bon」をはじめとするさまざまなメディアを駆使しながら、広告に関するあらゆるサービスをワンストップで提供する集団として存在感を発揮しています。

アプライズは2019年に当社グループに参画、2020年1月に株式の追加取得により連結対象子会社になりました。

SMILE FLAG
株式会社スマイル

株式会社スマイル

染色・印刷技術を活用した
のぼり・旗・タペストリー製造

香川県高松市香南町西庄2035番
URL : <https://smile-world.co.jp/>



2019年4月参画

1959年に染物屋として創業、染色加工技術をベースとしたシルクスクリーン印刷から最新の大判インクジェットプリンターおよび付帯の裁断、縫製加工設備までを駆使し、のぼりや旗などの繊維製品を製造するすべての工程を自社内で完結することができます。

展示会、イベントにおけるタペストリーやのぼり等への需要がますます増えるなか、当社グループの既存事業と多くのシナジー効果を見込んでいます。



KPC 研精堂印刷株式会社

2020年1月参画

研精堂印刷株式会社

商業印刷・出版印刷
WEB制作

岡山県岡山市北区高柳東町10番30号
URL : <https://www.kenseido.co.jp/>



1947年1月に岡山県岡山市にて創業。岡山本社・工場に加え東京に2支店を配し、24時間365日稼働の生産体制で県下はもとより、幅広い地域のお客さまからのご要望にお応えしています。ギリシャ語で継続してやり遂げる精神をいう「ディア・フォロン」を合言葉に、クリエイティブ・編集から印刷、製本、加工、封入および発送まで品質の高い製品づくりに努めています。西日本の拠点として、グループの成長に貢献することを期待しています。



2019年2月参画

株式会社ササオジーエス

スペースプランニング
イベント施工管理

東京都江東区平野2丁目3番14号
URL : <https://sasao.co.jp/>

前身のプロラボで培った色へのこだわりを内装工事に生かした空間ディスプレイを得意分野としています。

一般建設業の免許を有する施工業者として、設計から施工までをワンストップで提供することが可能です。当社グループでは年々増加するサインディスプレイ需要に対し、さらなるサービスの向上に繋がることを期待しています。

Visolab

2019年9月参画

Visolab (ヴィゾラボ) 株式会社

CGビジュアルコンテンツ制作
配信システム開発

東京都港区白金台3丁目17番5号 間中ビル4F
URL : <https://visolab.com/>

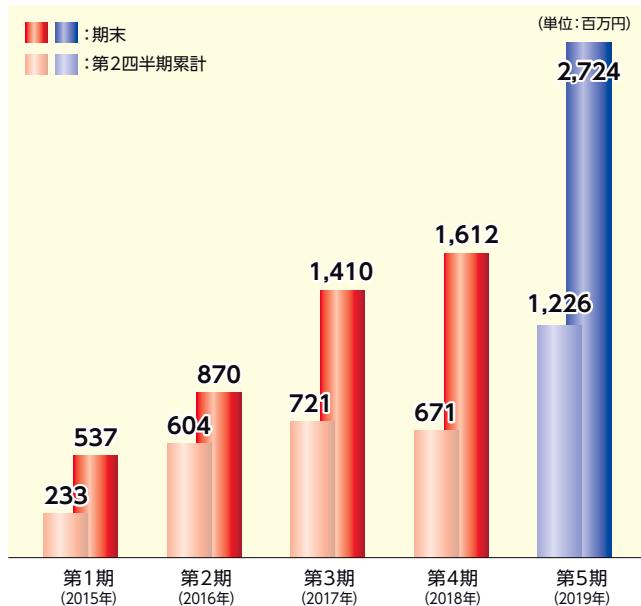
優れたシステム開発力を基礎として、ビジュアルコンテンツに関する研究・開発・提案をおこなっています。「3DCG事業」「ビジュアル支援事業」「受託開発カスタマイズ」の3つの事業を軸とし、それぞれの事業分野における営業展開のほか、3つの事業が保有する技術を組合せることでお客さまのニーズを捉えて、数多くの独創的で高品質なビジュアルコンテンツを提供、安定した受注を獲得しています。

業績の推移

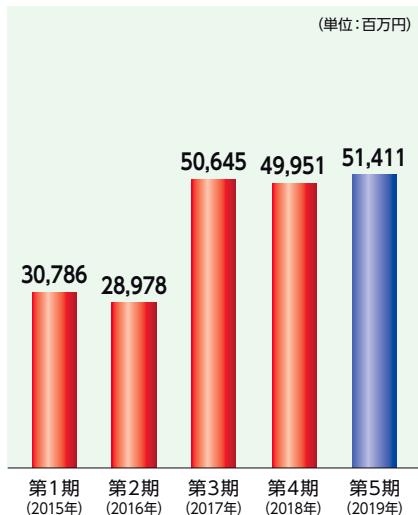
◆ 売上高



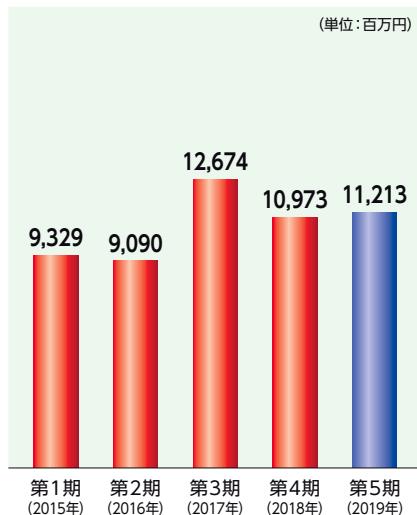
◆ 営業利益



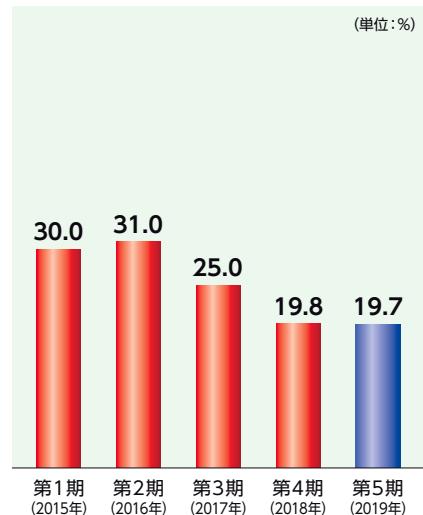
◆ 総資産



◆ 純資産

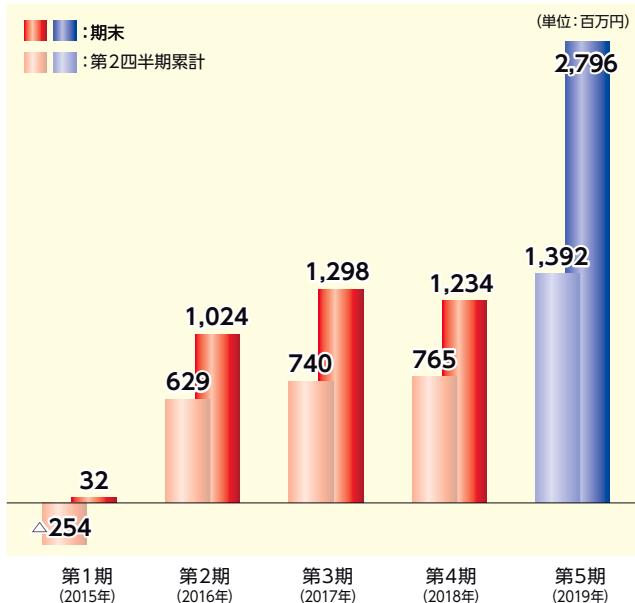


◆ 自己資本比率

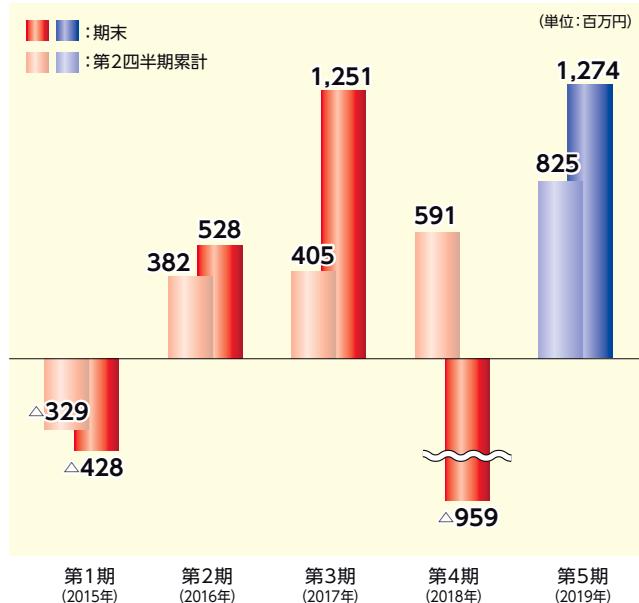


※ 第5期より、「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等の適用による表示方法の変更を行ったため、第4期の総資産については当該変更を反映した遡及修正を行っております。

◆ 経常利益



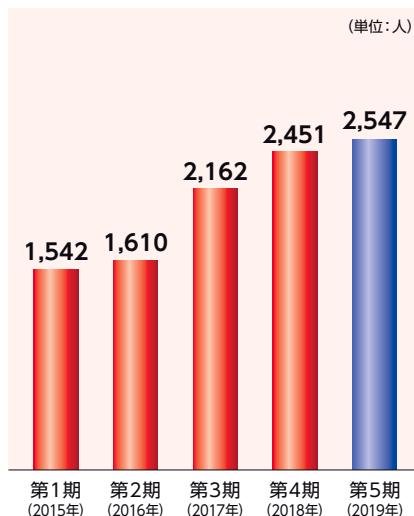
◆ 親会社株主に帰属する当期純利益



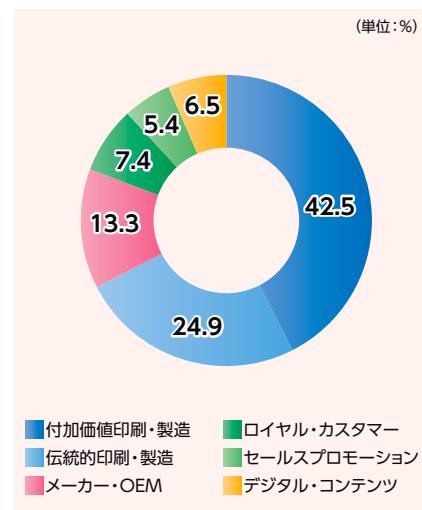
◆ 1株当たり純資産



◆ 従業員数



◆ 売上構成比



※ 2020年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第1期期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

連結財務諸表

◆ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前 期		当 期		科 目	前 期		当 期	
	2018年12月31日現在		2019年12月31日現在			2018年12月31日現在		2019年12月31日現在	
(資産の部)					(負債の部)				
流動資産	20,642	22,581	流動負債	27,432	30,382				
現金及び預金	5,558	7,141	買掛金	3,259	2,614				
受取手形及び売掛金	10,241	10,795	短期借入金	18,050	22,000				
短期貸付金	246	322	その他	6,122	5,768				
その他	4,595	4,322	固定負債	11,546	9,814				
固定資産	29,309	28,829	長期借入金	7,500	6,300				
有形固定資産	22,803	22,121	退職給付に係る負債	901	957				
建物及び構築物	6,510	6,401	その他	3,145	2,557				
機械装置及び運搬具	3,243	2,758	負債合計	38,978	40,197				
土地	12,378	12,385	純資産の部						
その他	670	575	株主資本	9,847	10,005				
無形固定資産	1,003	925	資本金	400	400				
のれん	83	86	資本剰余金	4,926	4,937				
その他	919	839	利益剰余金	5,800	6,826				
投資その他の資産	5,503	5,782	自己株式	△1,279	△2,157				
投資有価証券	3,061	3,532	その他の包括利益 累計額合計	62	109				
その他	2,441	2,249	非支配株主持分	1,063	1,098				
資産合計	49,951	51,411	純資産合計	10,973	11,213				
			負債及び純資産合計	49,951	51,411				

◆ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
	2018年 1月 1日から 2018年12月31日まで	2019年 1月 1日から 2019年12月31日まで
売上高	51,145	55,803
売上原価	36,645	39,827
売上総利益	14,500	15,976
販売費及び一般管理費	12,888	13,251
営業利益	1,612	2,724
営業外収益	261	441
営業外費用	638	370
経常利益	1,234	2,796
特別利益	397	269
特別損益	1,879	837
税金等調整前当期純利益	△246	2,228
法人税等	642	826
非支配株主に帰属する当期純利益	71	127
親会社株主に帰属する当期純利益	△959	1,274

◆ 連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
	2018年 1月 1日から 2018年12月31日まで	2019年 1月 1日から 2019年12月31日まで
当期純利益	△888	1,401
その他有価証券評価差額金	△203	43
繰延ヘッジ損益	△1	0
退職給付に係る調整額	△48	4
その他	0	△0
その他の包括利益合計	△253	48
包括利益	△1,142	1,449

◆ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
	2018年 1月 1日から 2018年12月31日まで	2019年 1月 1日から 2019年12月31日まで
営業活動によるキャッシュフロー	2,282	2,520
投資活動によるキャッシュフロー	△1,924	△1,524
財務活動によるキャッシュフロー	△1,497	483
現金及び現金同等物の増減額	△1,138	1,477
現金及び現金同等物の期首残高	6,663	5,550
現金及び現金同等物の期末残高	5,550	7,138

◆ 連結株主資本等変動計算書 (2019年1月1日から12月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主 持 分	純 資 産 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当期首残高	400	4,926	5,800	△1,279	9,847	67	△3	△0	62	1,063	10,973
当期変動額											
剰余金の配当		△75	△248		△324						△324
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,274		1,274						1,274
自己株式の取得				△878	△878						△878
連結子会社株式の取得 による持分の増減		86			86						86
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					-	41	0	4	46	35	82
当期変動額合計	-	11	1,025	△878	158	41	0	4	46	35	240
当期末残高	400	4,937	6,826	△2,157	10,005	108	△3	3	109	1,098	11,213

会社情報／株主メモ

■ 会社概要

商号	株式会社日本創発グループ
英文商号	JAPAN Creative Platform Group Co., Ltd.
事業内容	傘下グループ会社の経営管理およびそれに付随する業務
設立年月日	2015年1月5日
本社所在地	〒110-0005 東京都台東区上野3-24-6
資本金	400,000,000円
決算期	12月31日
会計監査人	PwCあらた有限責任監査法人
取引金融機関	みずほ銀行 三菱UFJ銀行 三井住友銀行
連結従業員数	2,547名(2019.12.31時点) ※臨時雇用者は含まれておりません。
顧問弁護士	荒山國雄法律事務所

■ 株式情報

証券コード	7814
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ
発行可能株式総数	160,000,000株
発行済株式総数	55,271,736株
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行
決算期	12月31日
定時株主総会	3月

■ 役員

代表取締役会長	山川 昌夫
代表取締役社長	藤田 一郎
取締役	鈴木 隆一
取締役	林 基史
取締役	菊地 克二
取締役 監査等委員	野沢 佳津夫(社外)
取締役 監査等委員	瀬島 仁志(社外)
取締役 監査等委員	寺田 正主(社外)
取締役 監査等委員	篠崎 祥子(社外)
取締役 監査等委員	菅波 希衣子(社外)
取締役 監査等委員	徳田 佳代子(社外)

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
剰余金の配当の基準日	3月31日、6月30日、9月30日、12月31日
公告方法	電子公告 URL: http://www.jcpg.co.jp/ ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同事務連絡先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-232-711(フリーダイヤル)

ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースや技術情報など、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しております。

URL <https://www.jcpg.co.jp/>

日本創発グループ

検索



■ グループ中核概念

Vision

日本創発グループの存在意義／めざすこと

Mission

ビジョンの実現に向けて、
日本創発グループがなすべきこと

Value

ビジョンとミッションの下、
日本創発グループが
お客さまや社会に提供する価値

We Craft Your Imagination.

お客さまが羽ばたかせるご自身のイマジネーション。
私たちは、多様なリソースと先進技術を駆使して、それを確かなカタチにするお手伝いをしていきます。

チームワーク

お客さまのチームの一員との心持ちで最善を尽くし、ベスト・パートナーとなることをめざします。そのためにも、社内・グループ内のチームワークの強化に努めます。

プロの真心と技

私たちは、
お客さまのご満足と成功を願う真心と、
それを支える技を兼ね備えたプロフェッショナルです。

言い訳のない品質

納品物の品質はもとより、
企画段階からアフター・フォローまでのプロセスとスピードにおいても、
言い訳のない高い品質を実現します。

プラスαの追求

私たちの最大の喜びは、お客さまにご期待を越える成果をお届けし、
その笑顔を見ることが。もっとその笑顔に出会うため、私たちは自らを
鍛えながら、お客さまにとってのプラスαを追求し続けます。

我が事として

私たちは、目の前の一人ひとりのお客さまのご要望や目的、お悩みや
お困り事に真正面から向き合います。そして、そのご満足を我が事として、
丁寧に、一所懸命に追求します。

多様性の底力

私たちは、多様な個性、専門性、先進技術をもった人と会社が結びつき、
切磋琢磨している集団です。そこに息づく多様性、先進性、独創性を
いっそう発揮しながら、お客さまに新鮮な驚きをお届けしていきます。

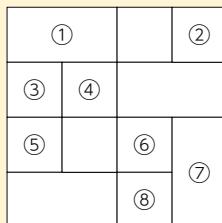
新しいカタチ

私たちは、伝統的な印刷をさらに進化させつつ、想像力と先進デジタル
技術を駆使して、クライアントの想いを、今まで見たことのないカタチで
ターゲットの心に刻みつけていきます。

良き市民

私たちは、良き市民として、
お客さま、投資家、協力企業、業界、社員、さらには地域社会や環境に
対する責任を、誠意をもって、また積極的に果たしていきます。

表紙写真について



- ① 詳細な都市データによる「REAL 3DMAP OSAKA」が描いた大阪市街のCGグラフィック。
- ② 真空技術により立体成型されたポスターは、平面では伝えきれない迫力を表現するのに効果抜群!
- ③ 商業施設や駅構内を広告媒体へと変える柱巻広告。不特定多数の人々へアプローチに最適。
- ④ 郵便ポストもパンダに変身させます! 日本郵政グループ様とは販促企画等で長年おつきあいをいただいています。
- ⑤ 通常のはがきよりも掲載できる情報量が多く、情報保護にも有効な圧着はがきは今やDMアイテムの主流!
- ⑥ 360度に配置された多台のカメラで一瞬の動きも立体スキャン。動きのあるフィギュアも3Dプリンターで簡単に制作。
- ⑦ 日本の伝統工芸「水引」がアクセサリー「KOKORO MUSUBU」に! 紙で織りなす日本の文化をお届けします。
- ⑧ 丈夫なアルミフレームを使い、絵柄の差し替えが可能な屋外看板「クイックジップ™」。トラックの装飾にも活用できます。

株式会社 日本創発グループ

〒110-0005 東京都台東区上野3-24-6

TEL.03-5817-3061

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォント
を採用しています。